



リステラス星圏史略
古資料ファイル 5-2-4
「俺と好」（中学編）



（発掘整理中）

霧樹里守 is 土岐真扉

目次

【 移転 の お知らせ 】	1
『 (MY YOUTH IN ARCADIA) 2 』 (※「俺と好」設定ノート の2@高校2年位～)	2
(設定&めも)	
『 (MY YOUTH IN ARCADIA) 12 』 (※「俺と好」設定ノート の2@1984.09.27.以降)	5
『 “俺と好”シリーズ番外編 』 (@日付不詳/たぶん高校2～3年頃の最 初期の設定。)	7
『 略年表・1 』 (@1990.04.21.)	8
『 略年表・2 』 (@1990.10.23.)	12
(キャラ設定)	
(磯原岳人(がくと)は元フリーのカメラマンだった)	19
(磯原岳人氏の夫人・マリセは異国から嫁いで来た人で) (1990.08.23.以降)	21
(「まあ、じゃ、やっぱり本当になりましたのね」) (1990.08.以降)	22
『透の日記より』 外海真扉(とうみ・まさと)	24
人物小史/磯原 厚(2009年10月31日)	25
(磯原家の末弟は典型的な登校拒否で)(1990.08.以降)	26
(異伝子) (高校?)	28
(草稿・没原稿)	
『食卓三景』 遠野真谷人	33
『ナジャと北王』 (んで姫役(ヒロイン)だれ〜っと)	34
『シリーズ・大野百景 ちょっと哀しい恋の顛末 』 (1990.09.16.)	36
「転校初日は3日目」	
「転校初日は3日目」	41
「転校初日は3日目」。【没原稿】(CE 2)。	42
『桜の日。』 転校初日は三日目 柗実真紅	45
『転校初日は三日目(仮)』 by 柗実真紅(とうみ・まこ)	47
『桜の日…… 転校初日は3日目』 (@平成元年?)	49
『転校初日は三日目 』 (1990.08.以降)	50

『夕映』	
「夕映」	55
「プロローグ」 (草稿)	56
『... 回・想・夢 ... つれづれなるままに。』 (@高校～専校? の、 「俺と好・番外編」としての最初期型☆)	58
(借景資料集)	
「杉谷好一が弾いていた曲」 (2014年8月10日23:21)	67
奥付	
奥付	73

【 移転 の お知らせ 】

- ☆
- ☆ 超～大幅に！ 加筆&改稿した2023年版、
- ☆
- ☆ こちらに移転しました。
- ☆
- ☆
- ☆ 『善野物語』
- ☆
- ☆ ... おおの・ものがたり...
- ☆
- ☆
- ☆ <https://novelpia.jp/novel/3718>
- ☆
- ☆

=====

(発掘作業虫～)

=====

『 (MY YOUTH IN ARCADIA) 2 』 (※「俺と好」
設定ノートの2 @高校2年位～)

<http://76519.diarynote.jp/200611160018230000/>

2006年11月16日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=4

- > 信じたいという気を
- > 起こさせる
- > だからおれは奴が嫌いだ
- > 信じるなんていうのは
- > 身の破滅を呼ぶだけのことだと
- > 判っているのだから

(設定&めも)

『 (MY YOUTH IN ARCADIA) 12 』 (※「俺と好」
設定ノートの2 @ 1984.09.27. 以降)

<http://76519.diarynote.jp/200611290134080000/>

2006 年 11 月 24 日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=4 <http://76519.diarynote.jp/200611290134080000/>

「心配でしょうがない奴なんだ。何をやりだすのかホント予測もつかなくて。常識なんて概念、カケラもないんじゃないかな。おれがついててやらないと、すぐに杉谷なんて不良にひっかかって……」

「ココア コーヒーブラウン？ 違うわ。清クンの肌はミルクココア色っていうのよ。あなた、なんにも解ってないのね。」

「O 高？ 私立じゃないか。なんで？」

「なんでって…… なんでだろ？ なんとなく……」

高橋の家の豆腐屋の収入では、私立高の学費なんぞとてもまかなえたもんじゃない。それをどうにかするためには、奨学金をうけて入学する他はなく理由もわからない恐怖感に追いつめられてガリ勉を続けた彼は、ついに、倒れた。

> 「なんか手伝うことある？」

> 「それは社交辞令ですか？」

> 「多分ね。あたしに実際あんたの仕事が代行できるとは思えんもん」

###

『 “俺と好” シリーズ番外編 』 (@日付不詳／たぶん高校2～3年頃の最初期の設定。)

<http://76519.diarynote.jp/200610042158590000/>

2006年9月29日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

- > 1. 転校初日は3日目
- > 2. 合わせたくもない顔 (ツラ)
- > 3. 家庭科は地獄の時間
- > 4. エプロンに三ツ編み.....
- > 5. 豆腐屋小町の弟。
- >
- > 番外編。無言の下駄箱争奪戦

『 略 年 表 ・ 1 』 (@ 1990.04.21.)

<http://76519.diarynote.jp/200609282032080000/>

2006 年 9 月 25 日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3 <http://76519.diarynote.jp/200609282032080000/>

(S 暦中)

☆ 磯原岳人、日本を出奔。

フリーの報道カメラマンとして第三世界諸国を遍歴。

交戦国により「D-III」(デモン・サード)薬品を散布されて

不毛の荒野と化した砂漠地帯で遭難。

《水の娘》に出逢い、救われる。

(※清峰 鋭、1988 生まれ。>大地世界シリーズ)

(慶賀 1 年)

☆《白》の一族の《五人目の》(ミーニエ)・マリセ、

(キリスト教式の洗礼名はマリア・ブランチェスカ)、

UNESCO 所属の野戦看護婦として岳人に出会い、懐妊。

磯原夫人として日本国へ渡る。

正式名称：ミーニエ・マリア・ブランチェスカ＝マリセ・磯原。

(慶賀 2 年)

☆ 磯原夫妻、横浜の古い洋館を譲られて入居。長男・広、生まれる。

(慶賀 3 年／緑慶元年)

★日本国に(右翼による)クーデター勃発。左翼政権肅正される。

4 月～7 月中、戒厳令。

天皇急逝、元号変わる。

外国人登録法改悪、国民総背番号制開始。

課税強化及び徴兵令公布、県境移動監視法施行。

在邦他国籍人、多数検挙される。

☆ 磯原家次男・高、生まれる。

(緑慶3年)

★クーデター派肅正。国会制度復活する。徴兵制度廃止。

在邦他国籍人の(自主的)国外退去始まる。

☆磯原家三男・厚、生まれる。

岳人、私立明野森高校に英語科教師として就職。

(緑慶4年)

☆9月16日、会田正行、生まれる。

☆1月1日、杉谷好一、生まれる。

(緑慶5年)

☆10月10日、磯原清、生まれる。

(緑慶6年)

☆2月3日、栄田晴樹、生まれる。

☆3月20日、杉谷優実子、生まれる。

☆春、磯原家に厚積透(あつもり・とおる)5歳、来る。

磯原岳人の私生児(?)として引き取られる。

(緑慶10年)

☆杉谷好一(5歳)、栄田商事の会長を射殺。NYへ移住。

(緑慶11年)

☆好・ユミ、NYにてエイミと暮らし始める。

☆清(5歳)、P能力を周囲に否定された事により発病、入院加療。

回復後、剣道を習い始める。

(緑慶12年)

☆清、小学校入学。

☆栄田未亡人、投身自殺。晴樹、施設へ引き取られる。

(緑慶15年)

☆清、混血であることからイジメに遭い、登校拒否症状出始める。

(4年生)

☆好、チャイナタウン周辺に出没。老李(ラオ・リー)と知り合う。

(緑慶 16 年)

☆ 清、完全に登校拒否。

☆ 杉谷良一氏の企業抗争激化。ユミ、狙われる。

(緑慶 17 年)

☆ 磯原家、転居を決意。

☆ 杉谷兄妹、日本国へ帰還。ユミ 9 月度より 5 年生に編入 (本当は 6 年)。

☆ 好、沢木兄弟と知り合う。

(緑慶 18 年)

☆ 清、小学校卒業。大野市へ転居。

☆ 岳人、大野学園中等部に就職。

☆ マリセ、養護施設に勤務。

☆ 広、京都の大学へ入寮。

☆ 高・透、横浜で下宿生活開始 (温高 3 年)。

☆ 厚、大野学園高等部へ入学。

☆ 4 月 8 日、清、大野市立第二中学校、1 年 B クラスに初登校。

☆ 4 月 10 日、好、大野市立第二中学校、1 年 B クラスに初登校。

(この日は清は欠席だった為、結局二人はスレ違う)。

☆ 5 月、サボタージュ同士の清と好、意気投合 (?)。

清、磯原家を初訪問。ユミ (6 年生) と出会う。

コメント

<http://85358.diarynote.jp/>

<http://85358.diarynote.jp/>

2014 年 10 月 1 日 8:44

あ、追記修正。

ミーニエ・マリセの所属集団はおそらく「国境なき医師団」のほうだと思われます...

(1970年代はまだ無かったもしくは私の知識に中田司令。)

『 略 年 表 ・ 2 』 (@ 1990.10.23.)

<http://76519.diarynote.jp/200609282102100000/>

2006年9月26日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

(緑慶 18 年 6 月)

☆ 清、徐々に学校になじみ、「梅雨祭」(仮称)をきっかけに、
出来了、高橋、横河、千のグループに入る。「コアラ」のアダ名つく。
★好、偶然から《センター》末端の研究所に侵入、会田正行に救われ、
日本の暗部での闘争を知る。

(緑慶 18 年 7 月)

☆ 横河、「大野市のナゾ」究明に燃え、一同をひっぱりこむ。
■ S グループ総合開発企画会議。
□ 高校生、測量阻止の見張りに立つ。柚谷 忍 など。

(緑慶 18 年 8 月)

★ 好、正行らの行動に参加の意志表明。
反対意見出て、まとまらず、正行の個人的な部下となる。
□ 会田翁、新路開発阻止に動く。
○ 盆送り。
☆ 広、帰省(?)。

(緑慶 18 年 9 月)

☆ 学期始まりより大祭準備解禁。1 - B、清主演(?)で劇の稽古。
■ S グループ系列 TV 局、大野に来る。商店街の親父達とひともめ。
□ K 市より一ノ木組、しめはりの交替に来る。

(緑慶 18 年 10 月)

○ 大野大祭(収穫祭)。

(緑慶 18 年 11 月)

- ☆ この頃から、清、よく杉谷家に泊まる。
- 初雪。
- 大野市、市条令により、開発反対を決定。

(緑慶 18 年 12 月)

- 暮れの仕度。

(緑慶 19 年)

- (1 月) 正月
- (2 月) 旧正月
- (3 月) 卒業式
- (4 月) 2 年に進級 (もちあがり)。ユミ、第一中学に入学。
- (5 月) 梅雨祭、準備開始。
- (6 月) 田植え。梅雨祭。
- (7 月)
- (8 月) 盆送り
- (9 月) 大祭準備開始
- (10 月) 大野大祭
- (11 月) 初雪
- (12 月) 暮れの仕度

(緑慶 20 年)

- (1 月) 正月
- (2 月) 旧正月
- (3 月) 卒業式
- (4 月) 3 年に進級 (クラス変え)。ユミ、一中 2 年に進級。
正行、大野高校入学。
- (5 月) 梅雨祭、準備開始。
- (6 月) 田植え。梅雨祭。
- (7 月) ☆ 観光バス事故。清と好、行方不明となる。
清の ESP 発現 (暴走)。山中で 2 ヶ月過ごす。

(8 月) 盆送り

(9 月) 大祭準備開始

- ☆ 清と好、下山する。好、ESP について研究はじめる。

(10月) 大野大祭
進路志望調査。高橋、猛勉強はじめる。
(11月) 初雪
(12月) 暮れの仕度

(緑慶 21 年)

(1月) 正月
高橋、倒れて入院。

(2月) 大野高校入試。
旧正月
県立高校入試。

(3月) 卒業式
柴田晴樹、市外の福祉施設を卒園し大野モータースに就職。

(4月) 清と好、大野高校入学。高橋らは県立清風へ。
清、剣道部へ入部。会田正行(2年)と合う。

(5月) 生徒会選挙。会田ゆかり、副会長となる。
中間考査

(6月) 田植え。梅雨祭。

(7月) 期末考査

(8月) 盆送り

(9月) 大祭準備開始

(10月) 大野大祭

中間考査

(11月) 初雪

(12月) 期末考査

暮れの仕度

(緑慶 22 年)

(1月) 正月

(2月) 学年末考査

旧正月

(3月) 卒業式

(4月) 清と好、2年進級。ユミ、O高入学。

(5月) ゆかり、生徒会長となる。

中間考査

梅雨祭準備開始。

(6月) 田植え。

梅雨祭。「北稜夢」上演。好、清の相手役をやるハメに……

(7月) 期末考査

★ 清、好、正行、ゆかり他、

例の10人、まとめて行方不明となる。

(8月) 盆送り

(9月) 大祭準備開始

(10月) 大野大祭

中間考査

(11月) 初雪

★好を除く9人、一旦帰還する。

清、しばらく入院生活。

(12月) 期末考査

暮れの仕度

(緑慶23年)

(1月) 正月

(2月) 学年末考査

旧正月

(3月) 卒業式

正行、関西(大阪)の国立大学に進学決定。

(4月) ゆかり、3年に進級。清は2年に留年。

☆ 清、高橋と再会。

(5月) 中間考査

☆ 清、夜遊び中、晴樹と出会う。

(6月) 田植え。梅雨祭。

(7月) 期末考査

(8月) 盆送り

☆ 清、晴樹と同居。

(9月) 大祭準備開始

(10月) 大野大祭

中間考査

(11月) 初雪

☆ 晴樹、死。18歳。

★ 9人、再び行方不明となり、未還。

(12月)

(キャラ設定)

(磯原岳人 (がくと) は元フリーのカメラマンだった)

磯原岳人 (がくと) は元フリーのカメラマンだった。

サハラから中近東へかけてと沙漠地帯の風景を追い続けるうちに1時消息不明となる。

数か月後、半ば以上記憶を失った状態で遠く離れた難民キャンプで奇跡的に発見・救出された。

それまでの間、どこでどうして生きのびていたものか...

彼自身はただ、長い夢を見ていたようだ... とだけしか、語らない。

衰弱しきった (本来ならとっくに骨になっているべき条件下にあったのだが) 状態で難民キャンプに身を寄せることしばらく。

やがて探しあててはるばる訪れた旧友たちに正式に身元を確認され、彼の治療を担当した国連派遣軍属のミーニエ・ブランチェスカ・マリセ、現・磯原夫人、を伴って帰国した。

その後、彼が一切カメラに手を触れることはない。

平凡な一教師として穏やかに小学生を教えている。

愛妻のミーニエ夫人はその敬虔な人柄と熱心なボランティア活動を通して、地域社会では結構著名な人物でもある。

男児が4人いる。

四男、清 (キヨシ)、1998年生まれ。

(参照したければ資料)

<http://85358.diarynote.jp/201612301932577624/>

<http://85358.diarynote.jp/201612301932577624/>

2016年12月30日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

(磯原岳人氏の夫人・マリセは異国から嫁いで来た人で)
(1990.08.23.以降)

<http://76519.diarynote.jp/200608072306120000/>

2006年8月7日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

磯原岳人氏の夫人・マリセは異国から嫁いで来た人で、肌色の濃い砂漠の民の容貌をいちばんよく受け継いだ末の息子の清（キヨシ）は、そのせいで、いつかクラスの中かで除け者のいじめられっこになっていた。

「どうして？」

おかあさんが、よその国の人だったらいけないのか.....と、新しい服をドロドロにされて泣きながら帰ってきた息子の問いを抱きとめて、母・マリセには、かけてやる言葉がなかった。

かつては、国籍などまるきり無視した組織の中かで、看護婦として難民のために働いていた彼女だ。我が子を、自分の母国へ連れて帰ってやること、あるいは、世界のどこへでも連れて引っ越して行ってやることは、いつでも出来たけれど、だからこそ、幼ない子供を餓えさせず、病気に冒させもせず、安全に護り育てることのできる国がどれだけ少ないかも、よくよく承知していた。

「あなた、お話があるのですけれど」

ある晩、いつも帰りの遅い夫を出迎えて彼女は相談をもちかける。いまでは珍しくなったほど正確な、古風な日本語で。

> 磯原岳人 = ミーニエ・ブランチェスカ・マリセ

> A やぎ 1/20 | B 水がめ 2/14

> -----

> | | | |

> 広 高 厚 清

> A B B AB

> 19 か 20 17 13 11

> 水がめ カニ 牡牛天びん

> 2/3 7/21 4/7 10/10

（「まあ、じゃ、やっぱり本当になりましたのね」）（1990.08.以降）

<http://76519.diarynote.jp/200608100052370000/>

2006年8月10日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

はなしの始めにさかのぼれば、それは二月のまだ寒い夜、おやじの、転任が、決まった。「まあ、じゃ、やっぱり本当になりましたのね」

ちょっと古風で正確な日本語を使う異国生まれの母は心なしか嬉しそうにそう言い、かなりの田舎なその地方へ当然ついて行くつもりで、単語帳かたてに飯を食っていた俺は試験に受かればどのみち下宿の予定だったしと、わりあい冷静に受けとめた。

複雑そうな面持ちでたがいに顔を見合わせたのは高校と中学の2年生をやっている、なかの良い三人の弟たちで、親父は例によって少し申し訳なさそうな物解りのいい口調で残りたいのなら何か手だてを考えるし自分達で決めなさいと、言う。

しばしの沈黙のあと、みな視線が集まった先では、

「.....ぼく、転校、できるのかな.....」

見ひらいた目をひたっと両親に向けながら、信じちゃいけないと自分に言いきかせるような、ここしばらくですっかり痩せてしまった六年生の末っ子が箸をもったままの細い手を胸に握りこむようにして小さく小さく、ポツンと呟やいた。

「転校、したいかい？」

中学の教師でもある父がおさえた声で尋ねる。その瞬間、残りの兄弟には全てが解った。このために両親は、住みなれた家からの引っ越しを受け入れたのだ.....と。

もちろん、末の弟、清にも解っていただろう。

「ぼく、学校、行く」

弱い声で、でもきっぱり言いきった。

「ぜったい、行く。」

.....そうだ。こいつは約束したことは必ず守るんだ。

となりの席の

> (第2稿)

> しんしんと雪の降る港の丘のよる、兄弟たちの育ったたいそう古い洋館には暖炉の薪のはぜる音が静かにひびいていた。

> 「まあ、じゃ、やっぱり本当になりましたのね」

『透の日記より』 外海真扉（とうみ・まさと）

『透の日記より』外海真扉（とうみ・まさと）

「磯原家の四兄弟」といわれてずっと育った。正確には、男の子が五人いる。末っ子がからだの弱い内弁慶でめったに門から外には出なかったので、御近所はそれを外して数えていたのだろうが……[四] という数をきくたびにぼくは自分の名前を考えずにはいられなかった。

ほかの兄弟は、上からヒロシ、タカシ、アツシ、キヨシ。三男のぼくは……トオル。これだけならべつにたいしたことはない、よくある子供の被害妄想を笑われてすむかもしれない。

報道カメラマンだった父について異国からやってきた母マリセはチョコレート色の肌に縮れ毛の美しい女性で、四人は多少なりとその砂漠の民族性を受け継いでいたけれど、ひとり日本人としてさえ色白の部類のぼくは、「いっしょくたに寝ているとマーブルケーキのようね」と、料理を母に習いに来ていた近所の女性に他愛もなく笑われて、夏休みの一日、海岸でただひたすら寝ころがっていたことがあった。あげく……全身火傷にちかい状態で救急車で運ばれて三日も寝込んだ割に、起きだして鏡を見ればあいかわらずの生白い顔に、まっすぐな髪だけがみごとに日に褪せて赤茶色になっていた。

五年分くらい、まとめて泣いたね。

ぼくは母の子供ではないそうだ。そしてたぶん、父の子ですらないのだろうと、思う。

>

人物小史／磯原 厚（2009年10月31日）

<http://85358.diarynote.jp/200910310138045794/>

2009年10月31日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

磯原 厚（いそはら・あつし）

磯原家の（実子の）四男。口べただが誠実な野球少年。
善野市水没時行方不明。

(磯原家の末弟は典型的な登校拒否で) (1990.08. 以降)

<http://76519.diarynote.jp/200608110012450000/>

2006年8月11日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

磯原家の末弟は典型的な登校拒否で、小学校を卒業させてもらったのは殆どお情けだった。学校へ行くのを嫌がるようになった理由を、本人は口をつぐんで云わないが、クラスでは清が混血だということへのからかいや、かなり悪質ないじめもあったのだと、かばおうとして一緒に泥玉をぶつけられた子供が証言している。

なめらかなココア色の肌にくせの強い巻き毛。

つり上がった大きな茶の瞳もイキゾチックな、大層きれいな子供で、いつでも少し不思議そうな表情をして、一歩さがって友達の遊びを見ているような、温和しくて、優しく、成績も良く……当然、周囲の大人のウケもよいけれど、そういった無意識のひいきが重なるほどに、クラスの乱暴者たちの反感は大きくなっていくらしかった。

ひとりの始めたいじめ、というやてゃ面白半分には周囲へ伝染する。なにをされても告げ口も仕返しもできない、物静かでシンの強い子供ではあったけれども、5年生の半ばから理由もなく吐いたり、腹痛を訴えては保健室へ逃避するようになり、欠席が増え、6年のクラスがえで仲の良い子と分けられてしまうと、もう完全に、他の子のいる間は教室に姿をあらわそうとはしなかった。

混血で、外見が日本人とは違うということで仲間はずれの対象にされたのは、3人いる兄弟も同じ条件だったが、彼らがいずれも体力や反射神経にものを言わせて仲間内での地位を確保できたのに比べ、もともとがいくぶん病気がちで内弁慶に育ってしまった末弟には、どうやら黙って耐える以外の打策は見出せずにいるらしい。

さほど人の出入りのある町でもないのに、引っ越しを手伝ってくれた御近所の口から噂はすぐに広まったらしい。入学式の日、母につきそわれて出かけた清はすっかり見せも

のというか、そぼくな好奇心の対象で、教室の近い新入生はもとより、他の校舎からも好奇心にかられた上級生たちが短い休憩時間にぞろぞろと見にくる始末。
緊張とい縮のあまり発熱して、タクシーで帰宅。翌日は、けっきょく枕から頭が上がり
なかった。

(異伝子) (高校?)

<http://85358.diarynote.jp/201609222113453738/>

2016年9月22日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

(異伝子)

彼、磯原清(いそはら・きよし)は、ちょっと複雑だ。

日本国籍の十一歳。

平凡な中学教師である父の妻はなぜか異国の女性で、それでも三人いる兄達はちょっと浅黒い肌にクセの強い髪...という、まあ日本人で通る顔立ちをしていたのだが。

どんな遺伝子のいたずらか、金褐色の髪にミルクココアのなめらかな肌色。ぱっちり吊り上がった深い輝きの瞳。

母方の、少数民族そのままの外見を、末っ子は持って生まれてしまった。

それをたぐい稀(まれ)な美童と見るかは、受けとる側の感性の問題だ。

「やだー、きもちわるーい」

クラスの子にそう言われたのは、清が小学校四年の時だ。

運の悪いことにもともと体の弱かったこの子供は前の学年の終わりにかなりの長期入院をしている。その間に、学区編成が変わった。

おわかれ会もなにも経験しないままに見知らぬ学校へ連れて行かれて最初の言葉が。

" 違う " ということは子供のあい

(未完)

(草稿 · 没原稿)

『 食 卓 三 景 』 遠野真谷人

<http://76519.diarynote.jp/200610042158590000/>

2006年9月29日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

> \ [俺と好\] the laugh sketches

>

> 『食卓三景』 by. 遠野真谷人 (とおの・まやと)

>

>

> その1.

>

> 「あ、おはよう。おかえりなさい」

> ドアを開けると妹(ユミ)がお玉を持ったまま振りかえった。腹が鳴るような匂いの湯気で台所(キッチン)は白っぽく曇りかけている。

> 「お兄ィちゃん、このごろ朝、どこへ出掛けるの？」

> 「.....ロードワーク」

> 首のタオルを洗濯場に放りこみながら答える。

> ばれたか。

> なるべく、ユミが目覚ます前には帰ろうと思ってたんだが。運動不足=(イコール)欲求不満がたまってくるとつい時間をかけてしまう。おまけに、今日は妙な兄弟にひっかかっちゃったし。

>明日からはきっともっと遅く帰るはめになるだろう。

> 「あ、やっぱり？」

> おれの思考などにはおかまいなく、よく磨いてある歯並びをひょいと見せてユミは笑った。

> 「じゃあ、お腹(なか)空いたでしょう。そうじゃないかと思って、特別メニューにしといたの♪」

『ナジャと北王』 (んで姫役 (ヒロイン) だれ〜っと)

<http://76519.diarynote.jp/200610042158590000/>

2006年9月29日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

> 『ナジャと北王』

>

> それは俺のひそかな愛読書で、俺のほかに何回か読み返している奴らがいるらしいくりかえし読む奴らがいるらしいのは、見るたび手ずれていくその様子でも伺えたけれど、それが。

> 俺がサボったある日のHR (ホームルーム) で文化祭の演目 (だしもの) に決まっているとは思ってもみなかった。

>

> 「でええっ! おれっ!?!」

> んで姫役 (ヒロイン) だれ〜っと無責任に口にした質問への解答の反応が、これだった。

> 「やだっ、おれ脚本のほうがいいっ」

> 「脚本はすでに出来ている」

> どんどのたまうのは文芸部の御大だ。

> 「陰謀だ〜女なんてやだ〜っっ」

> モノはなにして数代前の文芸部OBが書き残したらしい個人誌で、たいして長くもないその話のタイトルは『北陵』。古代インドかどこかが舞台の悲劇の王とその侍女の、熱恋モノだ。

アガラジャーダのナジュリシア

> 二十一世紀。

> とはいえなにぶんにもドいなかである。

> 辺境への文化の伝ば速度はどうぜんのように遅く.....

> はいはなし、三十年まえの首都周辺とさしてかわらない、ってのがここでの生活だった。

『 シリーズ・大野百景 ちょっと哀しい恋の顛末 』
(1990.09.16.)

<http://76519.diarynote.jp/200608182316340000/>

2006年8月18日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

『 ちょっと哀しい恋の顛末 』 by 磯原 広

どうやら好きなコがいたらしい。

高橋博文、中学三年、昔ながらの手造り豆腐屋の、当節家計は苦しいなかで、突然、私立高校に行きたいと言いだして両親を慌てさせた。

女子の商業、男子の高専、そのほかには、この街には高校は二つしかないわけだから、県立の清風高校を受験するものばかり、家族も、学校側も、思っていたのだが。

大野学園は試験がむずかしい。

それ以上に、高い学費と寄附金の支払いが、下町の豆腐屋には難しかった。

しっかり者の姉は、店を継ぐと自分で決めて以来、商業高校の調理科に通いながら、朝晩の豆の仕込みを手伝っている。

その、姉貴が、店に出す豆腐ハンバーグをまるめながら、行かせてやればと、かるく言った。

ひろちゃんの学費くらい、あたしが稼いでやるわよ。

それだけで、博文はもう自分の我がままを、諦めようとは、思った。

ただしひとつだけ、家族に負担をかけずに済ませる方法がある。

奨学金。

学年で一番の成績さえ取れば、ほとんど無料で、入学させてくれるあたりが、私立校の良い点だろう。

宿題しかしたことのない博文が、ガリ勉をはじめた。

大野はいなかの街で、ぜんたいにのどかなうえに、市立二中は三年二学期後半に至るまで、お祭り騒ぎと部活に明け暮れるほかは予習も復習もやらない、というのが校風になっている。

そんななかで律気にクラス委員として遊びにつきあいながら、博文は、勉強して、勉強して、勉強した。

眠らないので食欲はなくなるし、みるみるうちに頬もこけて、周囲中の心配も忠告もよ
そに、単語帳を放さない。

そこまでする必要があるので、当の片思いの相手に説教されたというのは、切ないこ
とだろうが。

本人には、必要だったのだ。

誰かと一緒の高校に行きたい。

その為だけに、努力を払うということが。

.....

高橋豆腐店

セキュリティ上、画像はパブーに登録してあるものしか使えません(<http://diarynote.jp/data/blogs/1/20160921/85>)

木造。築100年近い。

床（たたき）はセメント。

水回りはステンレスにかえてあるが。

2Fに姉弟の部屋と仏間（もとおばーちゃんの部屋）と

<s>北向きのベランダがある。</s>

屋根裏がある。

「転校初日は3日目」

「転校初日は3日目」

「転校初日は3日目」

「転校初日は3日目」。 【没原稿】 (E 2)。

<http://85358.diarynote.jp/201612301910094785/>

2016年12月30日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18

- > ええい。時計の音が五月蠅い。
- >
- > げげっ。遅刻だ。学校に間に合わない！
- >
- > 「あらー。清。おまえ、学校は？ もう帰って来たの？」
- >
- > 「あのねー母さん！」
- >
- > よそう。無駄なんだ。この無責任親に何を云ったってっ
- >
- > 「てきまっ！」
- >
- > 5分で着替え、洗面、朝食のマネごとまで片づけて、俺は家を飛び出した。
- >
- > う〜〜、朝は苦手だ★
- >
- >
- >
- > カバンの用意だけでも夕べのうちに片づけておいたのは正解だと思う。
- >
- > 俺、磯原清。当年にとって12歳になる目一杯ヒネて育った中学1年生。
- >
- > たぶん、超能力者。
- >
- > それも最近かじり始めたSF本を参考にしてみれば、かなり強力な。
- >
- > だけど頭のイタくなる話は後回しにしたい。切実に。
- >

- > 学校行く道ってどっちだったっけっ!?
- >
- > 過密都市の歩いて5分の小学校を卒業した人間がだよ。いきなり田舎の、登校所要時間1時間! なんつー場所に引っ越しさせられて、それで間に合うように起きられたんなら、そいつは正常じゃないっ!
- >
- >なんて。
- >
- > 4月5日新学期初日=晴れの入学式。
- >
- > 興奮して早めに目覚めたのはいいけど道に迷って出損ねた挙句、神経性胃炎おこして途中から引き返し。
- >
- > 6日は素直にひる(午)過ぎまで寝すごした...★(--)★
- >
- > 3日目で更に遅刻するような恥、したら、俺マジに登校拒否症状おこしたくなっちゃう。
- >
- > うわったそのバス待ってくれっっ
- >
- >飛び乗ったそれは、しっかり逆方向だった...
-
- > 「あらあ。キヨシ、おまえ学校は? もう帰って来たの?」
- >
- > 焼き上がったケーキをオープンから出しながら、実に喜ばしげにオフクロ殿はのたまった...菓子の味見をさせよーという腹だ。
- >
- > 「あのねーかーさん!!」
- >
- > 超高速で牛乳を喉に流し込み、服を着替え顔を洗い。じたばたと悪アガキをしながら、清は内心、今更のことながら深ァく、頭を抱え込んでいた。
- >
- >血液型BとAB型の両親なんて、持つもんじゃあ、ない.....
- >
- > 時計は朝の9時5分を指している。

『 桜の日。 』 転校初日は三日目 柊実真紅

(俺と好シリーズ・学園編)

『桜の日。』…… 転校初日は三日目 …… 柊実真紅

いー天気だなあ……

ぽっかりと見開いた黒褐色の瞳にかすむような青い空がうつる。

雲かと見えるのは家の軒先までも張りだしている、ようやく八分咲きの桜の枝だ。

白とピンクの濃淡が陽光のもと微風にひるがえる。

ほんっとおに、いい天……

え？

「でえええっ!!」

寝起きでかすれた、声にならない叫び。

時計は八時半を指している。

「かーさん、恨むよ～～っ」

うめいたところで無駄である。一度は起こしてくれた証拠に、窓とカーテンはきっちり開いている。

どだだっ、と制服片手にかけおりて行くとダイニングには十歳ちがいの長兄がとぐろをまいていた。両親は、とっくに出かけた後である。

「よー、なんだ中坊。おまえ、まだいたのか」

「うるさい！ 大学は春休み長くていーねっ」

語尾がいちいち切り上がるのは弱冠十一歳の弟が持病の胃痛に苛立っているせいだ。

「そう云うな。これでも荷造り大変なんだぞ」

「さっさと下宿でも寮でも行っちまえっ」

「冷てえなあ……タマゴどーする？」

自給自足が磯原家の原則だ。不憫な末っ子のためにわざわざフライパンを握ってやった彼の好意は、あっさり踏みにじられた。

「ヒマないっ」

虫歯ひとつない口の中を泡だらけにして叫ぶ。鏡をのぞき、長めのくせっ毛は梳かすだけ無駄なので指でかきまわして終わりにする。

ため息をついて、兄はミルク鍋を火にかけた。手早く香料入りの紅茶を煮込む。

「ほれ。飲め。」

カップをさし出された時には遅刻者は、真新しい学ランのボタン相手に苦闘しているところだった。

「もう歯、磨いちゃっ……」

「いいから飲め。」

ほとんどそのまま口に押しつけそうな態度と、猫舌用に放りこまれた氷のかけらを見て、しぶしぶ受け取る。

ずずずずず。

行儀悪く音をたててすすり込む。熱と糖分と、ハーヴの香気が痩せた体に浸みわたるにつれて、ずっと、しかめたままだった眉がふっと緩んで肩の力が抜けた。

「……サンキュ、ヒロ兄（にい）」

「おう。頑張んな」

渡されたカップを卓の上に置いて、三年ほど前に制服から卒業した兄は襟のホックを留めてやった。

……長い登校拒否で中学に上がるのは無理かとも思われた。それが、自分から行く、と言い切って、努力をしているのだから。

気を使われていることは本人も知っている。

もそもそと靴をはくと、とっくの九時をまわった時計に恨めしげな視線を向けつつ、玄関を出て行った。

> 彼、磯原清（いそはら・きよし）は、ちょっと複雑だ。

> 日本国籍の十一歳。平凡な中学教師である父の妻はなぜか異国の女性で、それでも三人いる兄達はちょっと浅黒い肌にクセの強い髪……という、まあ日本人で通る顔立ちをしていたのだが。

> どんな遺伝子のいたずらか、金褐色の髪にミルクココアのなめらかな肌色、ぱっちり吊り上がった深い輝きの瞳。

> 母方の、少数民族そのままの外見を、末っ子は持って生まれてしまった。それをたぐい稀（まれ）な美童と見るかは、受けとる側の感性の問題だ。

> 「やだー、きもちわるいーい」

> クラスの子にそう言われたのは、清が小学校四年のときだ。

> 運の悪いことにもともと体の弱かったこの子供は前の学年の終わりにかなりの長期入院をしている。その間に、学区編成が変わった。

> おわかれ会もなにも経験しないままに見知らぬ学校へ連れて行かれて、最初の言葉が。

> [違う] ということは子供のあい……

異伝子

『 転校初日は三日目 (仮)』 by 柊実真紅 (とうみ・まこ)

<http://76519.diarynote.jp/200610042158590000/>

2006年9月29日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

『 転校初日は三日目 (仮)』 by 柊実真紅 (とうみ・まこ)

いー天気だなあ.....

ぽっかりの見開いた両眼でかすむように青い空を見上げる。視界のすみでわずかにピンクがかった白い枝 ほぼ咲きそろった桜の枝が揺れている。

い〜天.....と。え!?

.....でええええっ!!

寝起きでかすれた、声にならない叫び。

磯原清 (いそはら・きよし) は飛び起きた。

時計は、八時半を指している。

「かーさん、恨むよ〜〜〜っ」

うめいたところで無駄である。一度は起こしてくれた証拠に、窓とカーテンはきっちり開いている。

少し寒いが、良い天気だ。今は見とれる暇がない。

どだだっ、と制服片手にかけおりて行くとダイニングには 早起きの10歳違いの長兄がとぐろをまいていた。

両親は、とっくに出かけた後である。

「よー、なんだ中坊、おまえ、まだいたのか」

「うるさい！ 大学は春休み長ぐていーねっ」

語尾がいちいち撥音になるのは弱冠11歳の彼が持病の胃痛に苛立っている証拠である。

「そう云うな。これでも荷造り大変なんだぞ」

「さっさと下宿でも寮でも行っちまえっ」

「冷てえなあ.....」

大仰に胸に手をあてて嘆く彼は温厚な性格で周囲に知れている。

「タマゴどーする？」

自力構成自給自足が原則の磯原家であって、不憫な弟のためにわざわざフライパンを握ってやった彼の好意は、踏みにじられた。

「ヒマないっ」

虫歯ひとつない口の中を泡だらけにして叫ぶ。鏡をのぞき、長めのくせっ毛は梳かすだけ無駄なので指でかきまわして終わりにする。

「……てきまっ」

ばたーん、と凄い勢いでドアが閉まった。

『桜の日 転校初日は3日目』 (@平成元年?)

<http://76519.diarynote.jp/200608300040570000/>

2006年8月30日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3 <http://76519.diarynote.jp/200608300040570000/>

桜の日 転校初日は3日目

蛍の夕

祭の夜

雪の朝

> ミーニエ・ブランチェスカ = 岳人 = ? =

> ・マリセ・磯原 (B) | (AB) |

> | |

> - - - - - |

> | | | | |

> 広高厚清秀

> A AB B AB A

> 21歳 18歳 14歳 11歳 17歳

『 転校初日は三日目 』 (1990.08.以降)

<http://76519.diarynote.jp/200608082344270000/>

2006年8月8日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

(目次)

まだ、
まだまだ、
もうすこし、
……きっと、

- > 桜の日 …… 転校初日は三日目
- > 蛍の夕
- > 祭の夜
- > 雪の朝

☆ 大野市を舞台として磯原家の清をとりまく諸相、

- ・母の特殊性、
- ・自分の特異な力と体験 …… 対人恐怖に至る、
- ・異民族の血をひくこと …… 登校拒否に至る、(Y市での思いで含む)

- ・兄弟間(おもに広、厚)の交流、

- ・バックグラウンドとして、母を訪ねてくる荒々しい力をもつ人々と、
国際的な人脈。

- ・日本国の時代的な閉鎖性、入れるんですか？

- ・地方の小都市
- ・地理的に閉鎖性を保ちながら、古くから、

- > 田夫野人（でんぷやじん）といえばイナカ者の代名詞だが、
- > 双子で生まれた俺たちに田夫（たお）と野人（のひと）と、
- > 名付けた曾祖父はいったいどういうつもりだったのだろう。

『夕映』

「夕映」

「夕映」

「プロローグ」 (草稿)

“俺と好” 番外編 下稿

プロローグ

いつもいつも思っていた。たとえば、花。

優しく話しかけてあげ、力を添えてやれば、好きな時に開くもの。

風。

頼みさえすれば、走りだすもの。

いつもいつも思っていた。

人の心。自然に流れこんで来るもの。目に見えるもの。

なぜそんな簡単な事が、人にはできないのだろう？

幼稚園のとき。

遊んでいてホウキが窓に当たった。

ガラスが割れる。

泣きだした子供たち…

女の子の額の大きな破片。

取り乱す先生。

「大丈夫だよ。痛くないよ。」

ぼくが一言いえば破片は粉々に消え、紅い傷口もすぐにふさがってしまう。

小学校のとき。

干上がりかけた真夏の貯水池で、深みにはまりすぎた近所のお兄ちゃん。

ぼくが念ずれば泥水は2つに裂け、太った体は空中に引きあげられる。

他の誰にもこれは出来ないこと。

何故だか誰にもできない、こんな愉しくて簡単な、面白いこと。

ぼく自身は自分を魔法使いなのだと思っていた。

だけれど。

そうして...

小学校も卒業して親の都合で遠くの町に引っ越して行こうという時。

〈俺〉はもう2度と不思議な力をなんか使うものか、魔法使いなんてやめるんだ。

そう、堅く決心を固めていたのだった。

(参照したければ資料)

<http://85358.diarynote.jp/201612301759597816/>

<http://85358.diarynote.jp/201612301759597816/>

2016年12月30日 http://85358.diarynote.jp/?theme_id=18 <http://85358.diarynote.jp/201612301759597816/>

『 ... 回・想・夢 ... つれづれなるままに。 』 (@
高校～専校? の、「俺と好・番外編」としての最初期型☆)

<http://76519.diarynote.jp/200610072136030000/>

2006年9月30日 http://76519.diarynote.jp/?theme_id=3

sect.1

なんでだろうと思った。始め、好が俺にちょっかいをかけはじめた時。
だから B と AB 型の親なんて嫌いだ。別にねー、放任主義も結構ですけどねー、
転校初日の思春期の息子を、朝、起こしてくれるくらいしたっていいじゃないか薄情
者っ!!

..... おかげで、2 日間、学校へ行き損ねた。

> あらおまえ、学校どうしたの、くらい云いそーだなー、ここん家の親なら。

あ〜あ。

K 県は都会の Y 市からいきなりド田舎..... でもないけれど旧へーな空気のどどん、と
残っている土地に引っ越しさせられて、自慢じゃないけどバリケードにできてるとはお
世辞にも云いがたい俺の神経、かなり緊張してた。それでも花の中学 1 年生! の初日の
ゴタついた雰囲気最初っから紛れこんじまえば“転校生”に向けられる奇異の視線もか
なりは緩和もできようかってもんだ。なのに、俺が初登校したの、3 日目だぜえ〜っ☆

ええいっ! 俺は珍獣(パンダ)でも一角獣でも BEM(バグアイドモンスター)でも
ないわいっ!!

他人の視線が集中する、とゆー俺の最もニガテな事態に老い込まれ、ますます慣れない
事に男女ともにから結構人気も出てしまったりして、環境適応不良のままひきつり笑い
で世を過ごすこと 1 ヶ月! 1 ヶ月もの間、不特定多数の相手から不特定多数として適度
に愛される、などという境遇に耐えたんだ俺はっ!

うっうっうっ。不得手なんだよー、これは。俺は特に親しい相手を作るか、さもなければ
1人がいい、ってタイプなんだから。

そんなある日のことだった。

定期的そううつ症状こと5月病も兼ねて、昼休みと自習時間とが重なったのをいいこと
に、ふら〜っと、そう、学校の裏山を散歩してみるつもりだった。緑がきれいだったから。
緑、みどり。いや、“青葉”てのは本当にあるんだなー、ゆうのがその時の実感だった。Y
市では、春を探そうと思ったらあっちこっち血眼になって街路樹あるきまわって、比較
的廃ガスにやられてないところ見つけて、やっ、あ、春だ春だ。ができるんだってえの
に.....ここじゃそこいらじゅうにごろごろ転がってるんだもんな。

なんて言ったらいいのかなあ。それは、ホントに“新緑”なんていう若葉の1部分を見つ
けてあげさに感激してみせる、ようなケチくさいシロモンじゃなくて.....“青葉”が山
ごと.....どころか1山いくらのバーゲンセールで本当に無造作に呼吸している、って
事なんだ。

だから山歩きって好きだよ。俺自身は、それほど体が丈夫でもないし、ハードな登山と
か不便な山小屋の生活には、耐えられそうにもないけど。暖かい山、が限度でちょっと
厳しい顔されたら手も足も出ないだろうとは思うけれど。

.....10分ほども歩いて行くと話には聞く市内観光むけ名所の滝がある。平日のことと
て人気はなくて、センスのない滝名やら由来やらを記した安手の看板がちょっとイヤ
だったけれど.....滝は滝。

や、今日は。初めまして。俺だったら、そう貴女（あなた）の名前は.....

う〜ん。ま、いいや、保留にしとこ。

その時ふっとなにかの気配に呼ばれたような気がして、俺は足の向くままに上流をすこ
し外れた方向へ歩いていった。

ポケポケと梢の空気を楽しみながら行くと進行方向に誰かいる。待ち構えてでもいるよ
うな姿勢でこっちの方を透かし見て。

あう☆嫌だな〜お。せっかくの久しぶりの1人つきりを楽しんでた所なのに。帰ろーか
なー。だけど案外“お仲間”で、友達になれそうな人かも知れないし.....でも.....

例よっての優柔不断をし続けるうちに足は惰性で勝手に動いて行き。

気がつくと、すでに俺は、そいつの領域（テリトリー）の中に踏みこんでいるのだった。

「サボる奴には見えなかったがな、転校生」

「さっ、サボりじゃないやい。5校時目、自習になったから、だから.....」

わ、タバコ。わ、不良！

嫌だやだやだ、どーもどっかで見たことのある奴と思えば、転校初日にあげ足とられて、
後で見るからに優等生ヅラのおためごかし連が、あいつには近づかない方が身のためだ
よとばかり、御忠告下さった当の本人相手じゃないか。わ〜〜★

「5校時目？桂木（かつらぎ）どうかしたのか？」

「か、風邪だって。」

「ふん、じゃ後で自宅（そっち）行くか。今日はもう学校に用はねえな。」

「今日はって、だって、おま.....きみ.....だって、午前中にだって居なかったじゃな
いかっ」

「それがどーした」

「どーした……って、そっちこそサボりだろっ！」

うわ。まず。

こんな人気（ひとけ）の無い所で不良（ふりょー）さんガンつけていいもんだろーか。呼んだって誰も来そうにない所なのに。そりゃ、昔っからイジメられっ子だったから殴られるのは慣れてるけど。にしてもこいつ腕っぶしは強そーだなー、身長なんて殆ど高校生なみにあるじゃんか、総身にまわりきる知恵があるかは知らんけど、あれ、こいつ、こんな所に本なんか持ち込んで来てやがる。学校フケて煙草吸いに来てたわけじゃないのか？

そいつ……杉谷の左眼が狂暴な光を帯びてすうっと細くなる。

「おまえ……………」

殴られるのはイヤだ。これはもう、叫ぶっか、ない。

「わ〜っ!! ハイライン! きみS・F好きなのっ?!!」

へっへっへっやったね、ペースを乱してやったね、と喜んでばかりいられたのも束の間だった。ともあれその時は、

「おまえ中学生（ガキ）のくせして英語の題（タイトル）読めんのかよ」

「(なんだとそっちだってガキじゃないか) 母親がもと国連所属の看護婦だかんね。一応初歩の英会話ぐらいは小学校で叩き込まれたよ。」

て会話だけであと切りあげて逃げ出せたんだけど。それからが問題。(……今にして思えばあの時おとなしく殴られてやってた方が俺の一生ははるかに平穏だったのではないだろーか。)

本当に、何でだろうと思ったね、急につきまとわれだした頃。

つきまとうって云ったって好（こう）のことだ。他の、俺の混血（ハーフ）の外見や転校生に対する好奇心から、磯原クンお弁当食べましょー、磯原一緒に帰ろうぜー、の仲間に入って来るわけが無論ない。そうではなくってじゃあどうされたのかって云うと、別に、変わった事って何もなかったんだよなー。

ただ、それから、ふっと気がつくとな奴の視線がこっちを必ず捕らえてやんの。それも、ただ視る、なんて生やさしいもんじゃない。じいじいっとばかりに、観察してやがる。担任の桂木センセと割に個人的に親しかったみたいなんで、勝手に人の成績やら、家族構成、前の学校での事、調べあげたりして。

最初はやっぱ腹が腹が立ったね。直接こっちに尋けばいいだろー、とか、つかかかって行ったりしては鼻であしらわれて。どーせ俺は動物園の熊なんだと思って、スネたし。夏服になって、肌寒い程の梅雨時を耐えしのいで、ようよういきなり暑くなりはじめた、7月。

「おまえS・F好きなのか？」

教室のドアの所ですれ違いざまに杉谷に尋かれた。しっかり、左手に俺の図書カードびらびらさせて。

「……どっちかってファンタジー寄りなのはそのカード見りゃ判ると思うけど？」

「家にルイスやらル＝グィンやらの原書がかなりあるぜ？」

「!!」

「……読みたけりゃ、今日の午後、家に来るんだな。」

「読み……たい……けど……」

逆接の続きを考える暇もあらばこそ。言うだけ言っちゃうと既にそこに好の姿はある訳もなかった。

断じて。

行く気はなかったんだぞー、俺には。けど、学校から帰るには、1本道だったし、臨時の図書委員会で30分ほど遅れて、下校しようとするところを待ち構えられていたんじゃない、俺でなくたって……………

……ええ〜い、全部どうせ俺の薄弱すぎる意志がいけないんだ。悪いのはみんな、俺なんだっっ!!

「なにをうなってる。」

「べつに。」

おさげにエプロン姿の（考えてみりゃ今と変わらん、）ユミちゃんに出会って、ヌケた話だけれど兄妹みくらべて初めて色の白さは混血（ハーフ）のせいだったのかと気づいて……

ユミちゃん。混血（ハーフ）。俺と同じ2分の1。

まだ小4だった妹が俺になついたらと見るや、その晩のうちに奴はさっさか外泊しに出かけて行っちゃい、俺は初めて自分が観察された理由をさとしたわけだけど……

可愛かったよ。男ばかり4人兄弟の末っ子の俺としちゃ。くるくるっとして元気のいいのが本当の妹みたいで、責任感が刺激されて。

……だから好が俺を見ていた訳は解る。夜遊びがしたくて、だけど妹を1人きりにさせるわけにもいなくて。好が俺を選んだ訳も判る。同じハーフで、いざとなればブロークンながら英会話もこなすから、典型的帰国子女言葉の姫君の守役には最適。

……だけど。

それだけ、なんだろうか、たったの。

なんだかんだとつき合い、つきあわせれ、滅茶苦茶な喧嘩騒ぎに巻きこまれ……酒煙草の類まで半ば強引に覚えさせられた、最初の1年間。

だけど、好、知りゃしないだろう。俺、ユミちゃんは、好きだよ。それでも。

中1の俺が小4の女の子（ユミちゃん）とつきあいたくておまえの無理難題に（ギャアギャア逆らいつつも）ついて行ってた訳じゃない。おまえのやる事なす事、もの凄い反発ももちろん覚えていたけれど。それでも、俺は、おまえが……………

偏よった育ち方をした俺にとって、杉谷好一って奴はどんどん“親友”という言葉の重みを、増していく存在だった。なのに、そいつには、外にもいくらでも……

いくらでも俺より話の判る知り合いがいるんだもんな。

……そんな中途半端な状態に、気づいて、俺が長いこと耐えていられる筈も……なかった。

好。俺は、単に便利なだけの存在なのか.....？

sect.2

「.....嫌だよ！俺は!!」

理由なんかもう覚えちゃいない。もともと大した事じゃなかった。ただとにかく爆発しちゃったんだ、たまりにたまってた、奴への欲求不満。

それは、単に“もっとかまって欲しい〜”式の、今おもえばガキの単純ないさかいだったのかも知れない。それにしても俺にとっては、他人に、はっきり自分の欲求や感情をぶつけるなんてのは初めての行為で.....

で、自分でもなに口走ったものか、覚えていないんだよね、よくは。

ヒマな土曜日放課後の、夕方も遅くに連れだって帰る道すがら。人気の失せた校門を出るあたりから俺の突発的発作性愚痴り攻撃が始まって.....だから、その日俺たちは前後に遠く離れて歩いていた。

7月、2年目の1学期ももうそろそろ終りという時期だ。

良く晴れ渡った暑い1日で、カラスが編隊くんでお家に帰ろうってえともう7時近い時刻になる。無論、どんな運動部だってこんな辺境にある学校である以上、とっくに終って生徒は帰してる。.....

何故だかひどく追いつめられた気分で、言いたい事をとにかく全部言ってしまった後、好は、なにやらもの凄く怖い形相をしてズンズン前へと行ってしまった。俺はといえば、ま、虚脱状態。暗〜い顔をしてホケホケ歩いていた。

町のドンはずれにある中学から市街地まで出て行くには1本道だ。日中は1時間に3本バスも走るけれど普通は歩いて30分。その、結構幅はある隣りの市へと通じる道両脇は森。

鮮やかな夕焼けが辺りを染めあげようとしていた。カーブや起伏の多い道路があかがね色に鈍く光る。

夏の、丘陵地帯の逢魔が刻(とき)。

不意に。直ぐ俺の後の小高い峠からダンプが1台、事故の名所だとは思えない猛スピードで現れ出た。直線下り坂コースをかつ飛ばし

(危ないなァ)

横を通り過ぎる1瞬、俺は気づいちまったのだ。運転手、寝てる。酔っ払い運転。

(好!!)

ひとり先に行く好は直線コースの向う、ヘアピンの外側を歩きはじめる所。

まきこまれる。危ない。カーブの下は崖だ。

叫ぼうとして声が出なかった。呼んだとしても、いくら好でも、手遅れだった。逃げら

れない。死。

難所での車の轟音がおとろえないのを、いぶかしんで好がふり向く。鋭い眼が一瞥で事態を見て取り

逃げられない。大型トラック。

恐怖心なんて本能、欠落してんじゃないのかと思っていた奴の顔に、俺ははじめて驚愕が浮かぶのを見た。視たと思った。その時には、好は既に車体のかげになっていたのだから。

時が、凍った。

(.....続.....きは未だ、書いて無い.....☆) (◇;)"

(借景資料集)

「杉谷好一が弾いていた曲」 (2014年8月10日 23:21)

<http://85358.diarynote.jp/>

2014年8月10日 23:21

次項のコメント欄のあとで読んでね。>

(^◆^ ;)

...こ、これ...(^^ ;)

<http://www.bing.com/videos/search?q=%e5%a4%a7%e5%8f%8b%e8%89%af%e8%8b%b1%e3%80%80youtube&#view=detail&mid=F7084B6B3F14C3ABA00AF7084B6B3F14C3ABA00A>

ま、まちがいなく...

「私の夢(?)のなかで」...

「杉谷好一が弾いていた曲」です...

(た、たぶん...☆☆☆★)(このノイジーなところが!!!!)

<http://85358.diarynote.jp/>

2014年8月10日 23:25

で、本人のセリフが、
「練習すればマネは簡単にできるがこれを作曲する才能はおれにはない」で...

これが弾けるだけのテクはある、というのが会田先輩に知れて、生徒会の学祭バンドの
助っ人に引っ張り出されたと...

w (^^;) w

なるほど。そういう順番だったのか...☆

(作者いがいにはどーでもいいエピソードなうえに、

その作者がこの話をいったい生きてるうちに書ける機会があるのかすら、
定かでないというくらい、どーでもいーはなし...★)

<http://85358.diarynote.jp/>

2014年8月10日 23:29

そして最近、もうひとつ、気が付いちゃってたんだよ...
(--;)

磯原家が、(劣化ウラン弾の健康被害を目のあたりに見て知っている両親が)
ある春先に突然、「国外もしくは、日本列島内でもなるべく西へ」
と可及的速やかに移住しようと、

突如としてバタバタと、
住み慣れた持ち家を売り払ってまでして、

横浜（関東）を離れた...

その、理由にね...(- - ;) ...★

(1980年代の私には、「日本政府が軍事化したせい？」までしか、判明しておりませんでした...★)

<http://85358.diarynote.jp/>

2014年8月10日 23:32

ちなみにユミちゃんは「トランスユーロッパエクスプレス」が好きだったりするので、清くんはCDの途中でこっそり逃げ出します...w

奥付

奥付

リステラス星圏史略

古資料ファイル 5-2-4

「俺と好」@「善野」

../../book/109752

著者：霧樹里守 is 土岐真扉

著者プロフィール：../../users/masatotoki/profile

感想はこちらのコメントへ

../../book/109752

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/109752>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<https://puboo.jp/>)

運営会社：株式会社ブックログ

リステラス星圏史略 古資料ファイル 5-2-4 「俺と好」 (中学編)

著 霧樹 里守 (きりぎ・りす)

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
